

# 平成28年度 施策評価シート

基本目標	地域で快適に暮らせる「すみだ」をつくる
政策	230 誰もが安全・快適に暮らし、移動できるまちをつくる
施策	232 歩行者や車いすなどを利用している人が、安全で快適に移動できる空間を確保する
施策の目標	歩行者が安心して歩ける歩道が確保され、交通事故の危険性が減るとともに、ユニバーサルデザインに基づいた施設整備やバリアフリー化が進むなど、誰もが、安全・快適に暮らし、移動できるまちになっています。

## 1 基本計画における成果指標

指標名	単位	目標値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
交通事故発生件数	件	900	-	-	-	-	-
道路バリアフリー整備延長	m	6,485	-	-	-	-	-

## 2 1の「成果指標」以外に施策の進捗状況を示す指標

指標名	単位	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
バリアフリーマップ掲載施設箇所数	所	170	170	171	167	180

## 3 目標と現状(実績)についての分析

<p>指標の推移・施策の課題や問題点について記述</p> <p>交通バリアフリー事業は、鉄道事業者に対し、区内の駅にエレベーター等の施設整備をした場合に、経費の一部を助成するものであり、事業者と協力しながらバリアフリー化を進めている。</p> <p>福祉のまちづくり推進事業は、施設を整備する個人・中小企業者・非営利法人等に経費の一部を助成するものである。</p> <p>バリアフリーマップは、平成22年度に作成し、平成23年4月から墨田区公式ホームページにアップしている。公共施設のほか民間の店舗等も掲載している。</p> <p>平成27年度には公共施設についてメンテナンスした。</p>
---

## 4 今後の施策の運営方針

<p>施策の戦略的方向性（選択肢に を付ける）</p> <p>(1) 優先的に資源投入を図る。</p> <p>(2) 現状維持とする。</p> <p>(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。</p> <p>(4) 資源投入の縮小を図る。</p>
<p>【上記の判断理由】</p> <p>安全で快適に移動できる空間を確保するため、引き続き、交通施設や公共的性格を有する建築物の整備をする者に対し経費の一部を助成する制度は存続させ、整備を図っていく。</p>
<p>【今後の具体的な方針】</p> <p>福祉のまちづくり推進事業(施設整備助成)については、区のホームページや区報、チラシなどでPRしていく。バリアフリーマップについては、内容の充実に努めていく。</p>



事務事業名	福祉のまちづくり整備事業(民間施設整備補助事業)		所管課・係	厚生課厚生係
施策	232	歩行者や車いすなどを利用している人が、安全で快適に移動できる空間を確保する	連絡先	5608-1163(直)
予算書名称	福祉のまちづくり推進事業		執行実績報告書ページ	72

1 事業の概要

墨田区福祉のまちづくり施設整備助成金交付要綱及び細則 東京都福祉のまちづくり条例施行規則に定める整備基準に従って建築物を整備する者に対し、その経費の一部を助成する事業	事業開始年度	平成5年度
	終了予定年度	

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
墨田区内の施設管理者、中小企業・非営利法人・個人	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
墨田区福祉のまちづくり施設整備助成金交付要綱における整備基準に従って建築物を整備するものに対する経費助成	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
障害者や高齢者などを含むすべての区民が、公共的性格をもつ建築物を安全かつ快適に利用することができる	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	民間施設整備補助件数	件	目標値	1	1	1
			実績値	0	0	0
成果指標 (目的に対する指標)			目標値			
			実績値			
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
東京都福祉のまちづくり条例に定める基準にあわせた工事をすることがむずかしく、利用がない。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) \*歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	民生費	項	社会福祉費	目	社会福祉総務費
27年度歳出予算額	2,000	27年度歳出決算額	0	27年度執行率	0.0%	28年度歳出予算額
27財源内訳(決算額)	国庫支出金 無	都支出金 有	その他 無	一般財源 有		
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの	墨田区福祉のまちづくり施設整備助成金					
27年度実績額	0	28年度予算額	2,000	対象	建築物を整備する中小企業、非営利法人、個人	
開始年度	平成5年度	根拠法令	墨田区福祉のまちづくり施設整備助成金交付要綱			
算定基準				補助率	整備費の1/2(上限350万円)	

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
近年、民間施設整備補助事業の利用が無く、中止した場合の影響は小さい				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	低い
近年、民間施設整備補助事業の利用が無い				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	低い
(4)現状と課題	民間施設整備補助事業の対象工事がむずかしく、相談があっても補助対象とならない。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	改善・見直し	判定理由	事業ニーズは今後拡大していくと思われるが、現在の助成制度が使いにくい ため利用が無い。 制度を見直しし、わかりやすく、使いやすい制度にする必要がある。
今後の方向性 (見直しの視点)	区内の小規模な店舗や医療機関等を、すべての区民が安全かつ快適に利用することができるようバリアフリー化をめざ すため、制度の周知をさらに徹底していく。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期	無	
	要旨	無	

事務事業名	福祉のまちづくり整備事業(バリアフリーマップ運営)		所管課・係	厚生課厚生係
施策	232	歩行者や車いすなどを利用している人が、安全で快適に移動できる空間を確保する	連絡先	5608-1163(直)
予算書名称	福祉のまちづくり推進事業		執行実績報告書ページ	72

1 事業の概要

高齢者、障害者、乳幼児を連れた方などが安心して外出し、行動範囲を広げられるように、区の施設、その他の公共施設、駅、民間施設等のバリアフリーに関する情報をホームページ上に公開している。	事業開始年度	平成23年度
	終了予定年度	

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

<b>【対象】 誰(何)を対象としているのか</b>						
高齢者、障害者、乳幼児を連れた方等	に対して					
<b>【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)</b>						
バリアフリーマップを墨田区ホームページにて公開するとともに、視覚障害者のために、地図などの画像ではなく「ことば」による道案内を行う「ことばの道案内」の公開	を実施したことで					
<b>【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか</b>						
安心して外出し、行動範囲を広げられる	状態にする。					
<b>目的を達成するための指標</b>						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	バリアフリーマップ掲載施設掲載箇所数	カ所	目標値	170	172	167
			実績値	171	167	180
成果指標 (目的に対する指標)	ことばの道案内作製箇所数	カ所	目標値	8	10	7
			実績値	8	6	10
<b>目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)</b>						
バリアフリーマップに関しては27年度中にスマートフォン版を作成した。 公園等のトイレのバリアフリー化が進んだことで、掲載件数がふえている。 「ことばの道案内」については往路だけでなく、利用件数の多い施設について復路の作成をした。 曳舟地区の施設については、京成曳舟駅高架化に伴い、メンテナンスを行った。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) \*歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	民生費	項	社会福祉費	目	社会福祉総務費	
27年度 歳出予算額	2,146	27年度 歳出決算額	2,146	27年度 執行率	100.0%	28年度 歳出 予算額	2,146
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 有	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
<p>バリアフリー情報の発信は重要であるため、区は積極的に情報発信を行う必要がある。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>アクセスしやすいように、さらに見やすいページ作りが必要である</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	効率的	前年度評価	効率的
(4)現状と課題	<p>施設及び施設内の設備の変化があるため随時修正していく必要があるが、民間企業の協力を得られない部分がある。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	民間施設のメンテナンスを行い、一層現状に近い情報とする。
今後の方向性 (見直しの視点)	利用者によりわかりやすいマップづくりを推進していく。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期	無	
	要旨	無	